

講座 データで学ぶエネルギーとカーボンニュートラル
第 24 回 IEA の World Energy Outlook 2025 (その 3)

キヤノングローバル戦略研究所 エネルギー教育研究会 座長 中山寿美枝
同 幹事 杉山大志
2026 年 1 月 3 日

今回は、World Energy Outlook 2025 で IEA が発信しているメッセージと、それがどう受け止められたか、ということを主にテキストデータから見ていきたいと思います。

WEO2025 冒頭に 8 ページにわたるエグゼクティブサマリーがあります。IEA がこの著作を通じて伝えたいメッセージは、このエグゼクティブサマリーに集約されていると考えられます。IEA は日本語を含む多言語のエグゼクティブサマリーを website に公開していて、WEO2025 では 9 ページの日本語版エグゼクティブサマリー¹がアップされています。その日本語版エグゼクティブサマリーのヘッドラインは以下の通りで、多くの論点がカバーされていて、メリハリがないというか、焦点がわかりません。

- ・ 不安定な世界で、エネルギー安全保障が中心的な役割を担う
- ・ シナリオ
- ・ 重大な脅威が重要鉱物のサプライチェーンに影を落としている
- ・ 高まる安全保障リスクの世界ではレジリエンスが鍵である
- ・ 電気の時代が到来した
- ・ エネルギーサービス需要が増え続ける中で、新たなプレーヤーが潮流を形作る
- ・ 再生可能エネルギーの継続的な拡大
- ・ 原子力発電が復活している
- ・ エネルギーミックスの多様な道筋
- ・ 石油市場と EV をめぐる曲折
- ・ 居場所を探す LNG
- ・ 石炭の物語はアジアで紡がれる
- ・ 現代的エネルギーへのアクセスは依然として中心的課題だが、前進すべき道筋がある
- ・ 世界的な排出量と気候変動の行方は分岐している
- ・ 重要な選択肢のマッピング

まず、エグゼクティブサマリーの第一パラグラフの強調部分を見ていきましょう。

不安定な世界で、エネルギー安全保障が中心的な役割を担う

差し迫った脅威と長期的な危険が、エネルギーを経済および国家安全保障の中核的課題へと押し上げている。

- 地政学的な脆弱性が抑制された石油価格と共存している。
- 各国はエネルギー安全保障とアフオーダビリティを優先しているが、達成のために異なる手段を採用している。

- 國際秩序には亀裂があり貿易の見通しには不確実性があるが、エネルギー貿易はかつてないほど重要である。
- 排出削減に向けた国内外の努力は以前ほど勢いがないが、気候リスクは高まっている。

これを、WEO2024 と WEO2023 のエグゼクティブサマリー日本語版の第一パラグラフの強調部分（以下の枠内）と比較してみましょう。

WEO2023

エネルギー情勢は依然として不安定だが、エネルギー安全保障を改善し、排出削減に取り組む有効な方法がある

世界的なエネルギー危機からくる当面の圧力は緩和されたものの、エネルギー市場、地政学、世界経済は不安定で、さらなる混乱のリスクは常に存在している。

このような複雑な状況にあっても、太陽光発電と電気自動車（EV）に代表される新たなクリーンエネルギー経済の出現は、前途に希望を与えている。

WEO2024

エネルギー安全保障および排出削減に向けた協調的行動にとって、地政学的な緊張の高まりと分断は重大なリスクとなっている

中東情勢悪化とウクライナにおけるロシアの戦争の継続は、世界が直面するエネルギー安全保障上のリスクを明示している。

今日のエネルギー市場の脆弱化は、国際エネルギー機関（IEA）の根本的・中心的使命であるエネルギー安全保障の重要性と、より効率的かつクリーンなエネルギー・システムがいかにエネルギー安全保障リスクを軽減できるのかを再認識させている。

近年、政策や産業戦略によりクリーンエネルギーへの移行が急速に進んでいるが、この政策や戦略が今後どのように変化するか、平時以上に目先の不確実性が高まっている。

これらを比較すると、IEA のスタンスが、WEO2023 では「エネルギー安全保障と排出削減のためにクリーンエネルギー推進すべき」、WEO2024 では「エネルギー安全保障リスク低減のためにクリーンエネルギー推進すべき」であったのが、WEO2025 ではクリーンエネルギーをゴリ推しすることなく「エネルギー安全保障のためには、課題はあるけれど、国ごとに異なる手段で、再エネも原子力も必要」に変化していることが、この第一パラグラフの比較から感じられます。

とはいっても、IEA は WEO2025 でクリーンエネルギー推しを諦めたわけではなく、**再生可能エネルギーの継続的な拡大**という部分では「ペースに違いはあるものの、再生可能エネルギーはすべてのシナリオで他の主要エネルギー源より速く成長し、太陽光発電が先頭に立つ」と記載しています。また、構成などから WEO2025 では CPS と STEPS が主役で、NZE が脇役に回ったことが伺えます（本講座第 22 回参照）が、**世界的な排出量と気候変動の行方は分岐している**という部分では「気候変動による最も深刻なリスクを緩和する道筋は依然として実現可能であり、主要技術には強い追い風がある」、「排出を大幅に削減するための選択肢はよく理解されており、多くの場合費用対効果が高い」という記載もあります。つまり、NZE も諦めてはいないのです。

化石燃料については下図のように、STEPS（公表政策シナリオ）では石炭、石油、天然ガスの全てが2030年前にピークを迎えて減少に転じますが、CPS（現行政策シナリオ）では石油と天然ガスは2050年まで増加し続けます。

Figure 1.2 ▶ Demand for coal, oil and gas by major driver and scenario, 2010-2050

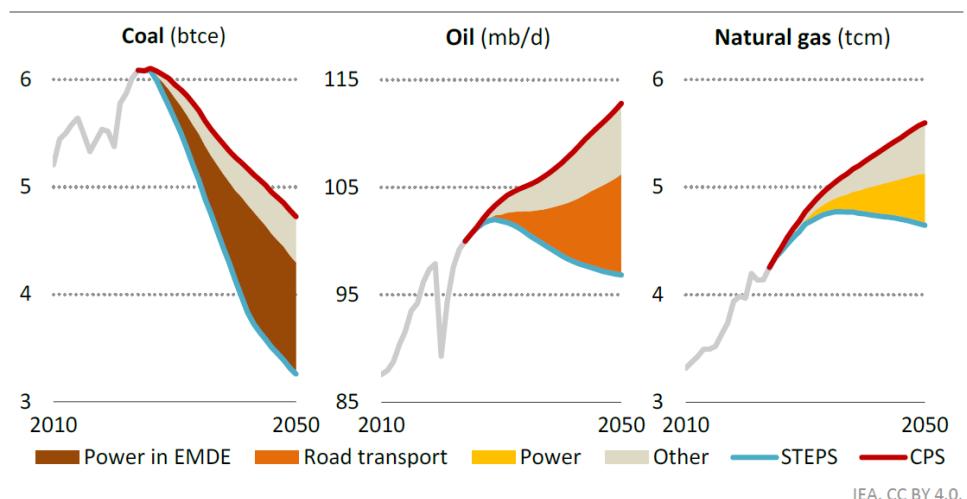


図 1 シナリオ別の石炭、石油、天然ガスの需要とその差異の要因

以上から、WEO2025 が近年の「再エネ単独推し」から、多様な道筋を示すように変化して、「あれもこれも」いわば総花的なメッセージを発信し、CPS を復活させたことによって STEPS と異なる化石燃料需要が多い将来の可能性を示している、ということが確認できます。

次に、IEA が WEO2025 で発信したメッセージがどのように受け止められたのか、見ていきたいと思います。

WEO2025 の発刊後に、ネットでどのように報じられるのか注意して見ていたのですが、これまでにない傾向が見られました。中東の報道機関による「IEA が石油、天然ガスが 2050 年まで増加し続けることを認めた」というもの、原子力関係団体による「IEA が原子力の復活を予測した」というステートメント、再エネ NGO による「IEA は今後の電力需要増加を再エネが支えていくと予測」というもの、不思議なことに、立場の異なる団体が肯定的な受け止めを公表していました。EV 業界は例外でしたが。

それを一番強く感じたのは OPEC のコメントです。WEO2023 では、IEA が初めて「STEPS で石油を含めた全ての化石燃料が 2030 年より前にピークアウト」というシナリオを発表して、それを OPEC が激しく「化石燃料に関するこの考え方は、事実に基づくものではなく、イデオロギーに駆り立てられたものだ」と批判して、大きな話題になりました。

図 1 に示したように、WEO2025 でも STEPS では相変わらず化石燃料は 2030 年前にピークを迎えているのですが、OPEC のステートメントは以下の通りで、STEPS には一切触れず CPS を参照してい

ます。

「IEA の WEO2025 の CPS では、2050 年までに『石油・ガス需要はピークに達しない』とし、『石油は依然として主要なエネルギー源であり続ける』と述べている。(中略) 我々に必要なのは幻想ではなく事実であり、イデオロギーではなく公平性だ。」

まるで、勝利宣言です。

WEO2025 については、原子力関係者は「原子力の復活」を、再エネ関係者は「再エネが継続的に拡大」を歓迎しています。つまり、IEA は WEO2025 で再エネ単独推しを止めて、総花的なメッセージを発信して、その上 CPS を復活させて主役に据えたことで、異なる立場の人達（あの OPEC でさえ）が「いいとこどり」ができるようにしました。

近年、低炭素化、脱炭素化一辺倒でエネルギーの番人のミッションを放棄していると批判されていた IEA が、米国の圧力に屈したという見方が専ら（IEA 自身はこれを否定）ですが、WEO2025 の八方美人化に成功した、と言えそうです。

ⁱ https://iea.blob.core.windows.net/assets/4329adc7-38d8-49f8-bd84-5db4fb6083bb/WEO2025_Executivesummary_Japanese.pdf